

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2024年2月8日

【四半期会計期間】 第95期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

【会社名】 中央可鍛工業株式会社

【英訳名】 CHUO MALLEABLE IRON CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 武 山 豊

【本店の所在の場所】 名古屋市中央区富川町三丁目1番地の1
(注)上記は登記上の本店所在地であり、実際の本店業務は下記の
本社事務所及び日進工場で行っております。

【電話番号】 <052>361-3141

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 加 藤 洋 平

【最寄りの連絡場所】 愛知県日進市浅田平子一丁目300番地
中央可鍛工業株式会社 本社事務所及び日進工場

【電話番号】 <052>805-8600

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 加 藤 洋 平

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第94期 第3四半期 連結累計期間 | 第95期 第3四半期 連結累計期間 | 第94期 |
|----------------------------|------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | | 自 2022年4月1日 至 2022年12月31日 | 自 2023年4月1日 至 2023年12月31日 | 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 |
| 売上高 | (千円) | 24,859,316 | 25,603,800 | 33,522,616 |
| 経常利益 | (千円) | 362,644 | 1,047,244 | 790,835 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 | (千円) | 184,468 | 852,566 | 670,751 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (千円) | 1,385,630 | 2,519,514 | 945,347 |
| 純資産額 | (千円) | 24,938,801 | 26,851,270 | 24,498,517 |
| 総資産額 | (千円) | 39,403,900 | 40,543,476 | 39,100,542 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 | (円) | 11.99 | 55.25 | 43.58 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 | (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 | (%) | 61.9 | 64.9 | 61.3 |

| 回次 | | 第94期 第3四半期 連結会計期間 | 第95期 第3四半期 連結会計期間 |
|-------------|-----|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | | 自 2022年10月1日 至 2022年12月31日 | 自 2023年10月1日 至 2023年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 | (円) | 26.50 | 18.24 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、依然として不透明な状況であります。

我が国の経済におきましては、各種政策により、雇用や所得環境の改善も進み、緩やかな回復となりました。また、当社グループの主要取引先であります自動車業界におきましても、部品供給不足の解消により、生産台数の回復がみられました。

この様な環境の下、当第3四半期連結累計期間の売上高は256億3百万円（前年同期比2.9%増加）、営業利益は4億39百万円（前年同期は営業損失4億33百万円）、経常利益は10億47百万円（前年同期比188.7%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億52百万円（前年同期比362.1%増加）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

可鍛事業

当セグメントにおきましては、乗用車向け部品が堅調に推移したことに加え、価格転嫁及び合理化努力により、売上高は250億32百万円（前年同期比3.1%増加）となりました。セグメント利益（営業利益）は、14億19百万円（前年同期比222.4%増加）となりました。

金属家具事業

当セグメントにおきましては、新たな顧客獲得に向けた営業活動や価格転嫁を推進してまいりましたが、売上高は5億70百万円（前年同期比1.9%減少）となりました。セグメント損失（営業損失）は、27百万円（前年同期は営業損失80百万円）となりました。

当第3四半期連結会計期間の総資産は405億43百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億42百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金が増加したものの受取手形及び売掛金が減少したことなどにより流動資産が1億15百万円減少し、関係会社出資金、その他（投資有価証券など）の増加などにより固定資産が15億58百万円増加したことによるものであります。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ9億9百万円減少し、136億92百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金、賞与引当金の減少などにより流動負債が6億51百万円減少し、長期借入金の減少などにより固定負債が2億57百万円減少したことによるものであります。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ23億52百万円増加し、268億51百万円となりました。主な要因は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が増加したことなどによるものであります。

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は69百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、運転資金の効率的な調達を目的として、引き続き2023年11月に取引銀行1行と総額10億円のコミットメントライン契約を締結しております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 36,000,000 |
| 計 | 36,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (2024年2月8日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|----------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 16,020,300 | 16,020,300 | 名古屋証券取引所 (メイン市場) | 単元株式数は100株 であります。 |
| 計 | 16,020,300 | 16,020,300 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2023年10月1日～ 2023年12月31日 | | 16,020,300 | | 1,161,000 | | 560,420 |

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 536,600 | | |
| | (相互保有株式) 普通株式 41,300 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 15,436,800 | 154,368 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 5,600 | | |
| 発行済株式総数 | 16,020,300 | | |
| 総株主の議決権 | | 154,368 | |

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

2023年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|------------------------|------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 中央可鍛工業株式会社 | 名古屋市中川区 富川町三丁目1番地の1 | 536,600 | - | 536,600 | 3.34 |
| (相互保有株式) 武山鑄造株式会社 | 名古屋市中川区 清川町三丁目1番地 | 41,300 | - | 41,300 | 0.25 |
| 計 | | 577,900 | - | 577,900 | 3.59 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,477,318 | 4,376,850 |
| 受取手形及び売掛金 | 6,186,929 | 4,973,727 |
| 電子記録債権 | 1,649,547 | 1,859,934 |
| 商品及び製品 | 1,008,114 | 1,062,439 |
| 仕掛品 | 801,456 | 670,712 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,067,488 | 1,063,643 |
| その他 | 290,927 | 358,920 |
| 流動資産合計 | 14,481,783 | 14,366,229 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 3,175,490 | 3,068,022 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 5,298,892 | 4,978,773 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 646,322 | 613,940 |
| その他（純額） | 4,423,115 | 4,626,451 |
| 有形固定資産合計 | 13,543,821 | 13,287,187 |
| 無形固定資産 | 47,476 | 45,390 |
| 投資その他の資産 | | |
| 関係会社出資金 | 7,338,698 | 8,271,700 |
| その他 | 3,695,703 | 4,579,908 |
| 貸倒引当金 | 6,940 | 6,940 |
| 投資その他の資産合計 | 11,027,461 | 12,844,669 |
| 固定資産合計 | 24,618,759 | 26,177,246 |
| 資産合計 | 39,100,542 | 40,543,476 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,107,387 | 1 2,826,857 |
| 電子記録債務 | 2,625,377 | 2,716,806 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3 716,665 | 3 702,974 |
| 未払法人税等 | 70,541 | 113,010 |
| 賞与引当金 | 341,892 | 85,877 |
| その他 | 2,050,682 | 1,815,060 |
| 流動負債合計 | 8,912,546 | 8,260,585 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3 2,832,964 | 3 2,361,289 |
| 役員退職慰労引当金 | 42,738 | 46,073 |
| 環境対策引当金 | 11,899 | 11,899 |
| 退職給付に係る負債 | 126,471 | 134,816 |
| その他 | 2,675,404 | 2,877,542 |
| 固定負債合計 | 5,689,478 | 5,431,620 |
| 負債合計 | 14,602,025 | 13,692,205 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,161,000 | 1,161,000 |
| 資本剰余金 | 732,847 | 736,781 |
| 利益剰余金 | 18,514,363 | 19,181,393 |
| 自己株式 | 207,330 | 192,490 |
| 株主資本合計 | 20,200,880 | 20,886,684 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,051,328 | 1,639,288 |
| 為替換算調整勘定 | 2,672,202 | 3,751,202 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 58,480 | 41,624 |
| その他の包括利益累計額合計 | 3,782,010 | 5,432,115 |
| 非支配株主持分 | 515,626 | 532,470 |
| 純資産合計 | 24,498,517 | 26,851,270 |
| 負債純資産合計 | 39,100,542 | 40,543,476 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日) |
|---------------------------------------|--|--|
| 売上高 | 24,859,316 | 25,603,800 |
| 売上原価 | 23,358,614 | 23,063,903 |
| 売上総利益 | 1,500,701 | 2,539,897 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,934,092 | 2,100,730 |
| 営業利益又は営業損失() | 433,390 | 439,167 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 11,467 | 10,936 |
| 受取配当金 | 62,218 | 76,992 |
| 受取補償金 | - | 188,903 |
| 持分法による投資利益 | 643,109 | 345,237 |
| その他 | 230,993 | 197,527 |
| 営業外収益合計 | 947,789 | 819,596 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 28,864 | 24,827 |
| 為替差損 | 102,294 | 153,320 |
| その他 | 20,596 | 33,371 |
| 営業外費用合計 | 151,754 | 211,519 |
| 経常利益 | 362,644 | 1,047,244 |
| 特別利益 | | |
| 助成金収入 | 1 39,910 | - |
| 特別利益合計 | 39,910 | - |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 2,610 | 2,653 |
| 特別損失合計 | 2,610 | 2,653 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 399,944 | 1,044,591 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 28,800 | 123,474 |
| 法人税等調整額 | 200,485 | 62,942 |
| 法人税等合計 | 229,285 | 186,417 |
| 四半期純利益 | 170,659 | 858,174 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失() | 13,808 | 5,608 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 184,468 | 852,566 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純利益 | 170,659 | 858,174 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 188,768 | 599,195 |
| 繰延ヘッジ損益 | 805 | - |
| 為替換算調整勘定 | 708,895 | 491,225 |
| 退職給付に係る調整額 | 50,986 | 16,856 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 746,636 | 587,775 |
| その他の包括利益合計 | 1,214,971 | 1,661,339 |
| 四半期包括利益 | 1,385,630 | 2,519,514 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,402,412 | 2,502,670 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 16,781 | 16,844 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日等をもって決済処理しております。
なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日) |
|--------|-------------------------|-------------------------------|
| 電子記録債権 | - 千円 | 5,431千円 |
| 支払手形 | - | 21,234 |

2 当座貸越契約及びコミットメントライン

当社グループは、運転資金の効率的な調達を目的として、9取引金融機関と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく当四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日) |
|------------------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 当座貸越極度額及び コミットメントライン契約の総額 | 5,850,000千円 | 5,850,000千円 |
| 借入実行残高 | - | - |
| 差引額 | 5,850,000 | 5,850,000 |

3 財務制限条項等

(コミットメントライン契約)

当社のコミットメントライン契約には、以下の財務制限条項が付されております。

借入人は各事業年度末日における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額を直近の事業年度末日における連結貸借対照表における純資産の部の合計金額の75%以上を維持する。

(シンジケートローン契約)

当社のシンジケートローン契約には、以下の財務制限条項が付されております。

本契約締結日又はそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額が、当該決算期の直前の決算期の末日又は2017年3月に終了する決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額以上であること。

2020年3月以降に終了する借入人の各年度の決算期に係る借入人の連結の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ2期連続して経常損失を計上しないこと。なお、2019年3月に終了する決算期は、ここでいう「2期連続」の対象に含めないものとする。

(四半期連結損益計算書関係)

1 助成金収入

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金等39,910千円を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

当該事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 1,748,328千円 | 1,533,262千円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2022年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 92,362 | 6.0 | 2022年3月31日 | 2022年6月27日 | 利益剰余金 |
| 2022年11月7日 取締役会 | 普通株式 | 92,633 | 6.0 | 2022年9月30日 | 2022年12月6日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2023年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 92,633 | 6.0 | 2023年3月31日 | 2023年6月26日 | 利益剰余金 |
| 2023年11月9日 取締役会 | 普通株式 | 92,902 | 6.0 | 2023年9月30日 | 2023年12月5日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------|---------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 可鍛事業 | 金属家具事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 顧客との契約から生じる収益 | 24,277,023 | 582,293 | 24,859,316 | - | 24,859,316 |
| 外部顧客への売上高 | 24,277,023 | 582,293 | 24,859,316 | - | 24,859,316 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 24,277,023 | 582,293 | 24,859,316 | - | 24,859,316 |
| セグメント利益又は損失() | 440,051 | 80,938 | 359,113 | 792,503 | 433,390 |

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額 792,503千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------|---------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 可鍛事業 | 金属家具事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 顧客との契約から生じる収益 | 25,032,820 | 570,980 | 25,603,800 | - | 25,603,800 |
| 外部顧客への売上高 | 25,032,820 | 570,980 | 25,603,800 | - | 25,603,800 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 25,032,820 | 570,980 | 25,603,800 | - | 25,603,800 |
| セグメント利益又は損失() | 1,419,153 | 27,465 | 1,391,687 | 952,520 | 439,167 |

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額 952,520千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日) |
|---------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益 | 11円99銭 | 55円25銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円) | 184,468 | 852,566 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円) | 184,468 | 852,566 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 15,383 | 15,428 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第95期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当について、2023年11月9日開催の取締役会において、2023年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

| | |
|--------------------|------------|
| 配当金の総額 | 92,902千円 |
| 1株当たりの金額 | 6円00銭 |
| 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2023年12月5日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月8日

中央可鍛工業株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人
名古屋事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小 出 修 平

指定社員
業務執行社員 公認会計士 川 合 利 弥

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中央可鍛工業株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中央可鍛工業株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。